



2026年 年頭所感

総 長 日高 義博

明けまして、おめでとうございます。

正月の箱根駅伝では、わが大学のシンボル「S」の一字を胸に刻んだ選手たちの姿がなく、寂しい思いをしましたが、来年は箱根路に復帰してくれるものと期待しております。一方、昨年末から始まった高校各競技の全国大会で



会に出場しました。その活気あるプレーに元気をもらいました。創立者のサムライ・スピリッツを背負っている専修人は、文武の両面において躍動する姿を示す責務を負っています。このころ、文武両道において顕著な成果が現れてきています。

難局を打破するしなやかさ

040年も間近であり、本学が創立150周年を迎える2030年までに、教育・研究の質を高め、かつ財政基盤を盤石にできるかが極めて重要です。

打破する底力と精神的しなやかさがあります。しかし、改革を主導するのは「人」です。オール専修の力を結集し、これからの難局を乗り越えていかなければなりません。「丙午年」にあやかり、飛躍の1年になるよう、心を新たに新春を迎えた次第です。

大学の総合力において私学10位以内に入るべく、さらなる尽力をしなければなりません。私立大学の場合、キャンパスに学生がいなくなれば、その存立を維持することはできません。少子化の傾向が顕著となり、大学志願者数が60万人を割ることが予測されている2

部展開の再考、入学定員の適正化、それに伴う教職員数の適正化など、いずれも解決を迫られる難題です。1880（明治13）年に専修学校を創立し、高等教育制度が変転する中であっても、旧制大学から新制大学へと変革を実践してきたわが大学としては、難局を

学 長 馬場 杉夫

明けましておめでとうございます。

「共に描き、共に築き、共に走る」をスローガンに掲げ、学長に就任してから4カ月が過ぎました。新年にあたり、この1年、どのようなことに取り組もうとしているのかをお伝えしたいと思います。

専修大学は2030年に創立150周年を迎えます。これまでの卒業生や教職員の努力が、政財界や法曹、スポーツ、その他での地位を築き上げてきました。歴史の重みを感じつつ、未来に向けた活動に取り組んでいく必要があります。

歴史の重みを未来に向ける

を設ける必要があります。加えて、自身が成長したことに気づくためのフィードバックが欠かせません。講義はもちろんのことながら、留学、インターンシップ、PBLなど数多くの機会が用意されていますが、学生がより積極的に取り組めるように働きかけるとともに、振り返る機会が設けられているかについて再確認していきます。

さらに、専修大学の良さをアピールし、未来に向けてキャンパスを構想していきます。二つのキャンパスで1学年約4000人を抱えている大学だからこそ、課外活動を充実させ、多様な学生同士が交流し、社会の諸課題の解決の糸口を見つけることができます。これらを支えるのが、S・I・D・E・T・Aサイエンス教育です。

迅速に情報を結びつけるとともに、エビデンスに基づいた分析を可能とします。卒業生と結びつくことで、課題解決の可能性をさらに高めることができるでしょう。

また昨今、違法薬物や闇バイト、悪徳商法等の魔の手が学生に忍び寄ってくる機会が増えています。違法薬物等を撲滅させ、グリーンでクリーンな大学へ向けて一層、まい進していく所存です。

理事長 松本 健一

新年のお慶びを申し上げます。

1880（明治13）年、51人の入学生から始まった専修大学は今年、創立147年を迎えます。この間、「社会に対する報恩奉仕」を建学の精神に、「質実剛健・誠実力行」を学風に、そして21世紀に入っからは「社会知性（Socio-Intelligence）の開発をミッションに掲げ」学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に、32万余の卒業



援をいただきながら、社会に立ち続け、教育・研究機関としての役割を果たしてきました。社会の屋台骨を支える校友の方々が国内外を問わず、さまざまな分野で「建学の精神」を実践し、活躍されているという実績こそが、本学の歴史と伝統の証しと言えるでしょう。

四つの視点を大学づくりに

生を社会に送り出してきました。本学はこれまで、日本のみならず世界における歴史の変動の中にあっても、校友や育友をはじめとした多くの関係者の方々からご支

今、社会は大きく変わりつつあります。少子高齢化、AI技術の進歩とその活用が加速的に進んでおります。しかし、より豊かな社会づくりに必要不可欠なものと期待されているAIには多くの課題が内包されていることも忘れてはなりません。世界中の情報がWeb等を通して瞬時に確認できる

する有為な人材の育成という専修大学の使命が変わることはありません。その使命を果たすためにも、国際性、先進性、開放性、実践性という四つの視点を意識した大学づくりを推進し、日々、教育・研究環境の更なる改善と財務基盤の強化に努めて参ります。

本学は、創立者である相馬永

現代社会では、情報を適切に判断するための基礎となる教養力と、自ら課題を発見し、解決する能力が必要とされています。それこそが専修大学が目指す「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」です。

大学を取り巻く環境は一層厳しさを増していますが、社会に貢献しう



成長を実感できるようにするために、キャンパスの内外に数多くの成長機会